

平成29年度第2回「三重県2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会関連事業推進本部」会議概要

日 時：平成29年9月11日（月）9:20～9:35

場 所：県庁3F プレゼンテーションルーム

- 1 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会にかかる最近の主な動き
事務局（清水課長）から、資料1により説明
- 2 三重県の平成28年度取組実績、平成29年度取組予定について
部局長から資料2により取組概要を説明

別所スポーツ推進局次長

- ・オリンピックまであと3年を切り、フラッグツアーが6月から各地で開催されるとともに、聖火リレーについても先般の全国知事会議（7月27日）で組織委員会から各知事に協力要請があるなど、機運醸成の取組が本格的にスタートしている。
- ・東京オリパラのキャンプ地誘致については、前回の本部会議（5月12日）で報告したとおり、県内で5市町が誘致に取り組んでおり、四日市市とカナダ体操協会が協定を締結した。
- ・先週の知事のカナダミッションにおいて、カナダ体操協会、レスリング協会、シンクロ連盟などでPRしていただいた。それぞれ反応が良かったと聞いており、今後來県して視察いただけるとの回答をいただいた。今後は、確実に視察につなげていくことと誘致の実現に向けての交渉が重要になる。カナダ以外の国も含めて引き続きアプローチする。
- ・ラグビーワールドカップについては、鈴鹿市と県が公認チームキャンプ地選定に共同申請しており、今夏に候補地が決定する予定であったが、遅れている。情報収集するとともに、候補地に選定されるよう鈴鹿市と連携して対応する。
- ・オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップについて引き続き庁内連携を図りながら、市町とも十分連携し、キャンプ地誘致の実現に向けて頑張っていきたい。

田中健康福祉部長

- ・ 2 ページの 2 の①で国内外の大会をめざす身体障がい者の選手 6 人に、理学療法士やスポーツ医等が、練習プログラムを提供している。
- ・ 現在強化指定を受けている三重県在住の選手 2 人には、引き続き強化合宿や大会への参加の支援を行っている。
- ・ 8 月に三重交通 G スポーツの杜鈴鹿で日本身体障がい者水泳連盟と日本ボッチャ協会が強化合宿をそれぞれ 4 日間、5 日間行うとともに、日本代表選手と三重県選手との合同練習を実施。
- ・ 12 月には、三重県身体障害者総合福祉センターで日本肢体不自由者卓球協会、日本ゴールボール協会の合宿が予定されており、その際には三重県選手との合同練習等も実施予定。
- ・ 平成 30 年 3 月 18 日から 22 日まで 5 日間、伊勢市のサンアリーナでボッチャの国際大会が開催される。その周知のため、ボッチャの体験会を 8 月に三重テラス、9 月に看護大学でのみえのスポーツフォーラムを活用して開催し、それぞれ 170 人、500 人に参加いただいた。今後、様々なイベント、例えば国際観光シンポ、MieMu の企画展などを活用して大会を周知し、また運営を支援していく。
- ・ 平成 30 年度以降の競技団体の合宿、大規模大会の開催に向けて引き続き誘致に取り組んでいく。

井戸畑環境生活部長

- ・ 3 ページの 3 のとおり、日本文化の魅力を国内外に発信する「beyond2020 プログラム」について、三重県が認証組織となった。ここでいう日本文化は、食文化、祭、伝統的工芸品など多様な文化を含むため、各部局で実施する事業について「beyond2020 プログラム」の積極的な活用と関係団体への周知等をお願いしたい。
- ・ 本県の優れた歴史・文化等を国内外に発信する取組として「宣長サミット」を 10 月 14 日に開催するとともに、県立美術館で「本居宣長展」を 9 月から 11 月にかけて開催する。

- ・ 6 ページの 6 の②のとおり、東京オリ・パラの機運醸成のため、MieMu で 11 月から来年 1 月に「オリンピック・パラリンピック 栄光の軌跡」の特別展を開催する。

岡村農林水産部長

- ・ 上半期の取組のうち主なものとしては、3 ページの①の事業で首都圏での販路拡大を図るため、5 月に「東京オリパラ三重県農林水産協議会」発足させ、同日、シンポジウムを開催した。下半期には、オリパラ関連の宿泊施設に対しマーケティング調査等を実施するとともに、「国際ホテルレストランフェア」等への出展を行う。
- ・ ②の事業では、オリパラの食材調達基準となる G A P の取得促進に向け、7 月に「三重県 G A P 推進大会」を開催し、「みえ G A P チャレンジ宣言」を発表するなど、供給体制の整備を開始した。下半期には、指導員の研修や、営業活動等に活用する食材カタログの作成などを行っていく。
- ・ 4 ページの③の取組として、県産野菜の機能性分析を行い、アスリート向けレシピ冊子を作成するとともに、来年 2 月に三重テラスにおいてケータリング事業者向けのスポーツ栄養セミナーを開催する。
- ・ ④の取組として、「高級ボトル茶」、「プレミアムな結びの神」など、より磨きかけた農産物の品目ごとにプロモーションを展開していく。
- ・ 5 ページの⑦の水産物については、10 月 1 日に雇用経済部と連携して、三重テラスにおいてイセエビ漁解禁に合わせたイベントを行う予定。このような形で首都圏に向けた販路拡大に取り組んでいく。

3 その他

東京オリンピック・パラリンピック関連の平成 30 年度予算概算要求について、事務局で各省庁の要求状況を確認し、幹事会を通じて各部局と共有していることを事務局から報告

4 知事コメント

- ・ キャンプ地誘致では、先週、カナダを訪問し、レスリング協会の事務局長から、「来年3月の女子レスリングワールドカップで日本を訪問する際、時間をとって三重県を訪問したい」をはじめ、極めて評価の高いコメントをいただいた。パラリンピックの団体は訪問できなかったが、パラリンピック委員会の局長が三重県の取組に関心を持っている。引き続きカナダ以外にも含めてキャンプ地誘致に向けて市町としっかり連携してほしい。
- ・ 市町においては、国際交流に慣れていないところもあるので、市町任せにするのではなく、県もイニシアティブをとって積極的に取り組んでほしい。
- ・ ホストタウンは、キャンプ地誘致が決まらなくても取り組めるので、もっと積極的に活用してほしい。多文化共生、国際交流、観光、障がい者福祉の発展など色々な考え方がある。県がホストタウンとして取り組んでいる例もあるので、各部局において活用してほしい。
- ・ 東京オリ・パラは、食のGAPもそうであるが通過点である。東京オリ・パラを活用して食のレベルアップをする、観光地のレベルアップをする、多分化共生を進める、障がい者福祉をもっとやるという一つのメルクマールに東京オリ・パラを活用してほしい。そこがゴールでなく、県政発展のために東京オリ・パラを活用するという観点で、今、若干視野が狭いように思うのでアンテナを高くしてほしい。
- ・ スポーツ庁の平成30年度予算の概算要求は、29年度予算に比べて67億円多い401億円が計上されている。東京オリ・パラを通過点として県政を発展させるために、目を皿にして情報収集して活用を検討してほしい。
- ・ 三重県が春に国へ提言・提案したGAPについては、農水省が新規事業として9億円要求するなど、本県にとっても大きなチャンスなので活用してほしい。
- ・ 今後、聖火リレーが具体的に動いていくと思われるので、市町と連携して三重県らしい聖火リレーができるよう検討を進めてほしい。

以上